

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	5年時	6年時	5年時	6年時	5年時	6年時
H29 入学 現 6 年生	県	全国	県	全国	県	全国
	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)
	59.0	61	36.7	49		53
	(1.01)	(0.95)	(0.87)	(0.79)		(0.85)
R4 正答率の全国比	0.93		0.77		0.83	

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・本校は、県平均と比較して、国語、算数、理科のすべてにおいて下回っていた。特に算数は13ポイント、理科は9ポイントと大きく下回っていた。

【国語】

○「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」の正答率は県や全国を上回った。

▲「読むこと」は47%、「我が国の言語文化に関する事項」は68%の正答率で下回った。

物語文の読解力が弱く、婉曲表現を読み取る力が弱い。

▲記述式の無回答率が高い。

▲文字の大きさや配列に注意して書くことの問題では、初見の問題であったためか正答率が低い。

【算数】

▲領域ごとの正答率が、「変化と関係」は39%、「図形」は43%、「データの活用」は50%と下回った。

▲記述式の無解答率が高い。

▲割合の理解が不十分で誤答が多い。

▲問題文の情報量が多く、必要な情報を選択したり処理したりすることができていない。

▲プログラミングで作図する問題では、実際に作図する仕方と違うため誤答が多い。

【理科】

▲領域ごとの正答率では、「エネルギーを柱とする領域」が40%と下回った。

▲「メスシリンダー」の器具名の誤答や無解答が多かった。

▲自分の考えをもち、その内容を記述する問題は無解答が多い。

▲昆虫の問題では、形式が違う表を比較することができず、誤答が多い。

【意識調査】

・「ゲーム、スマホ、動画視聴」では、1日平均4時間以上使用している児童が全国平均より多い。また、週末や放課後の過ごし方でも、テレビ・ゲーム・SNSが86.4%である。

・学校の授業以外に1日の学習時間が1時間以上は、県や全国を大きく上回っている。

・新聞を読んでいる児童は、全国平均を上回っていて、読書も多くの児童が読んでいる。

・国語や理科の勉強が好きと答えた児童は多く、算数は好きと答えた児童と嫌いと答えた児童が多い。

・わからない問題はあきらめずにいろいろな方法を考えると答えた児童は全国よりも低く、全く考えないという児童もいる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・【授業改善の取り組み】

「授業づくりステップ1 2 3」のステップ3を目指して授業づくりを行うようにし、チェックシートの振り返りをするすることで、授業改善の意識の継続を図る。その中で、ステップのポイントが低い「まとめ」や「振り返り」を児童がまとめることができるようにしていく。そして、児童のノートから授業の指導法についても振り返ることを全職員で取り組むようにしていく。

・【読むことへの取り組み】

読むことに抵抗をもっている児童が多いため、週末の宿題などに文章問題に取り組みせたり、授業内容と関連して、読書活動の充実を図ったりしていく。

・【記述することへの取り組み】

どの教科も記述する問題の無回答率が高かったため、日頃の授業の中で、キーワードや文字数などの条件を与えて文章を書くような経験をさせていく。

・【書き込み指導の取り組み】何を問われているのか、キーワードや大事なところはどこなのかなどが分かるように、問題に書き込ませるようにしていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・【学びの土台づくり】

児童の発達段階に合わせた「西っこカード」を全学年で活用し、基本的な生活習慣作りに取り組んでいる。その中の生活習慣を身につけさせていく項目を児童の実態に合わせて変更したり、学習において大切な「読むこと・書くこと」への力をつけるために、「音読」や「日記」を毎日取り組みせたりしていく。そして、保護者にサインをしてもらうことで、家庭とも連携を取ることができる。

・【教員相互の学び合いの充実】

TT授業や少人数授業を行うことで、教員同士が指導法や教材研究について学び合ったり、授業公開を参観して学んできたことを共有したりすることで、指導力向上を図っていく。